

5 寺と庭

※題字／森川芳聲



もくじ

- 2 巻頭言 国難を乗り切ろう…………… 山口 秀範
- 3 “あちこちde寺子屋”のご案内
- 4 民間人から見た教育現場（最終回）… 小田村直昌
- 5 昨今の教育事情雑感①…………… 坂口 秀俊
- 6 「偉人レポート」…………… 北原 勉
- 8 ミャンマーと日本⑥…………… 守田 剛
- 9 先駆者・石村善悟君逝く…………… 山口 秀範
- 10 伊達政宗「馬上少年過ぐ」をめぐる④… 廣木 寧
- 11 TERA KOYAふおとれぼーと
- 12 歌碑のこころ(11) 編集余録 余録の余録



糸島市志摩町船越・綿積神社境内

歌碑のこころ

あづさろ引津の辺なるなのりその花
摘むまでに逢はざらめやものりその花

引津の浜辺に漂う「なのりそ」の花よ、その花を他の男が摘む前に、私が逢わずにおくものか、なのりその花よ（名前も告げない箱入り娘よ）。

※詳しい解説は12頁に掲載しています

国難を乗り切ろう

代表世話役 山口 秀範

パンデミックの獄中

緊急事態宣言発出以来、私たちの生活はかつて経験のない規模で大きく変わっています。他人との接触を八割控えるなど並大抵では達成出来ません。人を集めて偉人伝を語る寺子屋モデルの事業も、すべて延期または中止の已む無きに至っています。日々の大半は自宅に留まり、今やテレワークが日常となりました。

ZOOMというオンライン会議システムに慣れて来ると、一旦中止した勉強会も画面を通して呼びかけたくなり、松陰先生に学ぶ輪読会を再開しました。家か事務所に籠っている閉塞感を吹き払うには、『講孟劄記』の序は恰好の箇所でした。

黒船来寇という大國難に、自ら渡米して立ち向かうとした松陰の壮図は果たせず、萩の野山獄に繋がれてしまいました。この時生きる望みもない同囚たちと呼びかけ『孟子』を講じたのですが、その序に、「境の順なる者は怠り易く、境の逆なる者は励み易し」と記します。そして獄中という逆境に身を置いている自分たちは、励んで何かを得ることが出来る、と困難をもとめせず読書学問に生き生

きと取り組んだのです。

感染の不安と外出自粛という「パンデミックの獄中」にいる私たちを勇気づける一文に触れて、画面の向こうの参加者は、共に学ぶ喜びを改めて噛みしめてくれたようです。

長内さんとのご縁

このウィルス災禍に襲われる直前、私にとつてそして寺子屋モデルとしても大切な方お二人を喪いました。長内俊平さんと石村善悟さんです。

長内さんは大正十一年青森の生まれ、所謂学徒出陣世代です。仙台高等工業学校の頃に国民文化研究会の前身の会が主催する合宿で研鑽を積まれ、やがて入営。戦局劣勢の中で特攻隊を志願され、猛訓練の内に終戦。戦後はお勤めの傍ら、次代の若者育成に生涯を尽くされた方です。私も学生時代から聖徳太子の精神につき書物で指導を頂きつつ、日々地に足を踏ん張って生きたお姿に感化された一人です。少年の面影を留めた純真無垢なお人から、誰をも包み込む海のような心、相手を思い遣るが故の厳しいご叱

正で、接する学生たちを魅了して来られました。

ご退職後に献身された国文研の事務局長の後任を、私が引き受けたこともご縁を深くしました。合宿時に斎行される慰霊祭で長内さんが長年詩吟の朗詠をなさったことから、私も詩吟を習いお役目を果たしています。事務局長後継のご挨拶のつもりで青森のお宅をお訪ねし、奥様共々歓待を受けたことが昨日のことのように思い出されるのです。

十年程前に不思議な夢をみました。長内さんと私が隣同士の特攻機に乗り、開聞岳に別れを告げて沖繩を目ざしているのです。悲壮感はなくむしろ爽やかな気分で飛んでいました。

この度ご子息の俊陰さんからご丁寧な御報せを頂き驚きました。若き長内さんは訓練だけでなく、特攻命令に従って出撃されていたのです。お手紙を引用します。

「編隊を組み爆音を響かせ白いマフラをなびかせ、敵の待つ海へ向かいいます。その時の父の気持を私は手にとる様にわかるのです。勇気が泉のように湧いてくるのです。鬼畜米英とか天皇陛下萬歳とか国のためとかを超え、ただただ無心で目の前に広がる青空の様に清々しい気持ちに充ち溢れているのです」

何と、あの夢の場面はご子息の述懐と

そっくりそのままでした。現実はこの後、機体のエンジン不調から基地へ戻り次の命を待つうちに終戦を迎えられたとのこと。この究極のご体験を、ご生前には明かされなかったご心境は偲びて余りあります。

今出来ることを

もう一人の石村善悟君は親友であり同志とも呼ぶ存在でした。昨年暮れに見舞った折、病床の無精髭で乃木大将を彷彿としたこと、緊急事態宣言の出た翌朝、花まつりの日に世を去ったことなど、新たな思い出となるでしょう。九頁に追悼文を掲げます。

国難克服への道筋は未だ不透明ですが、負けてばかりでは居られません。「ふおとればーと」でご紹介した通り、休校中の子供たちにYouTubeで偉人伝を届け、五月の連休明けからは、志明館オンラインスクールを開講します。同様に「ZOOM寺子屋」実施の目途も立ちましたので順次ご提案して参ります（画面越しにご参加の皆様はマスク無し顔が素敵です）。次頁ご参照の上、是非ご参加下さい。

身は幽囚にあつても心は縦横に駆動していた吉田松陰に肖つて、令和の民私たちも未曾有の事態を乗り切りましょう。